

四半期報告書

(第38期第3四半期)

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	6
1 【株式等の状況】	6
2 【役員の状況】	7
第4 【経理の状況】	8
1 【要約四半期連結財務諸表】	9
2 【その他】	27
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	28

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2017年2月13日

【四半期会計期間】 第38期第3四半期(自 2016年10月1日 至 2016年12月31日)

【会社名】 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社

【英訳名】 ITOCHU Techno-Solutions Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 菊地 哲

【本店の所在の場所】 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

【電話番号】 (03)6203-5000(代表)

【事務連絡者氏名】 主計部長 鈴木 正巳

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

【電話番号】 (03)6203-5000(代表)

【事務連絡者氏名】 主計部長 鈴木 正巳

【縦覧に供する場所】 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 西日本支社
(大阪市北区梅田三丁目1番3号)

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 中部支社
(名古屋市中区錦一丁目5番11号)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第37期 第3四半期 連結累計期間	第38期 第3四半期 連結累計期間	第37期
会計期間		自 2015年4月1日 至 2015年12月31日	自 2016年4月1日 至 2016年12月31日	自 2015年4月1日 至 2016年3月31日
売上収益 (第3四半期連結会計期間)	(百万円)	251,751 (86,521)	271,934 (96,116)	391,606
税引前四半期(当期)利益	(百万円)	10,075	14,931	27,942
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)利益 (第3四半期連結会計期間)	(百万円)	6,257 (2,468)	9,950 (4,037)	18,018
親会社の所有者に帰属する 四半期(当期)包括利益	(百万円)	5,681	8,838	17,784
親会社の所有者に帰属する持分	(百万円)	167,182	179,452	179,285
資産合計	(百万円)	280,219	299,865	307,932
基本的1株当たり四半期(当期) 利益 (第3四半期連結会計期間)	(円)	54.12 (21.35)	86.07 (34.92)	155.85
希薄化後1株当たり四半期 (当期)利益	(円)	—	—	—
親会社所有者帰属持分比率	(%)	59.7	59.8	58.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	9,843	12,562	21,856
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△9,391	△12,328	△18,185
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△8,507	△8,665	△8,422
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	41,886	36,663	44,880

- (注) 1. 当社の連結財務諸表は、国際会計基準（以下「IFRS」）に基づいて作成しております。
2. 当社は要約四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
3. 百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。
4. 売上収益には、消費税等は含まれておりません。
5. 希薄化後1株当たり四半期（当期）利益は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「第4 経理の状況

- 1 要約四半期連結財務諸表 要約四半期連結財務諸表注記 5.セグメント情報」をご参照ください。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、中国をはじめとしたアジア新興国の景気下振れ懸念や、米国の今後の政策に関する不確実性などにより、景気の先行きに不透明感があつたものの、堅調な企業収益や雇用環境の改善などにより、全体的には緩やかな回復基調が続きました。

情報サービス産業におきましては、製造業、金融業、流通業などの分野でIT投資が回復傾向にあり、全体的にビジネス環境は堅調に推移しております。

このような状況下、当社グループにおきましては、「リーディング・カンパニーとして、IT産業の進化を担う」ことを目指す姿とした、2016年3月期から2018年3月期までの3か年の中期経営計画の達成に向け、サービス型ビジネスの拡大や、総合力発揮による顧客基盤強化、積極的な成長投資などに取り組んでおります。

具体的には、基幹系を中心とするミッションクリティカルなシステムに特化し、セキュリティやコストパフォーマンスに優れたクラウドサービス「CUVICmc2（キュービックエムシーツー）」や、お客様の保守対応の負荷軽減と障害復旧時間の短縮を実現するために、マルチベンダー環境での障害検知を自動化する保守サービス「Avail-I（アベイルワン）」、さらにこれを発展させ、ネットワークやパフォーマンスのビッグデータ分析を行うことで障害や遅延の発生を予測するサービス「Avail-ProE（アベイルプロイー）」の提供を開始いたしました。また、株式会社ベルシステム24が提供を開始する予定の、企業のWEBサイトに寄せられた消費者などからの問い合わせに対し、AIで自動回答するソリューション「BellCloud AI for Webself」の開発に同社と共に取り組みました。さらには、企業のIoT活用に向けた大規模なデモンストラレーションや検証ができる「IoTデジタルLAB」や、独自の管理プラットフォームを用いてロボットのビジネス利用を支援する検証施設「RoBo-LAB（ロボラボ）」の開設、サイバー攻撃に伴うセキュリティ・インシデント（事案）に対応するための企業内組織「CSIRT（Computer Security Incident Response Team）」の立ち上げから運用までを総合的に支援する「CSIRT構築・運用支援サービス」を開始するなど、サービス型ビジネスの拡大に向けた取り組みを推進いたしました。

総合力発揮の取り組みとしましては、2016年4月に、重点顧客に対するビジネス領域の拡大や柔軟な人材リソース活用による大型案件の対応力強化などを目的とした、セグメントの再編を含む組織改編を実施いたしました。

中期経営計画では経営基盤の強化を重点施策の一つに掲げており、その一環として社員が働きがいをもって効率的・効果的に働けるよう「働き方変革」を推進しております。育児や介護、自己啓発などのニーズに応じ、多様な働き方に対応して就業時間帯の変動を可能にする「スライドワーク」や、1時間単位での年次有給休暇の取得を可能にする「時間単位有休」、外出時の隙間時間やオフィスとの往復時間を活用して効率的な業務を実現する「モバイルワーク」などの制度導入に加え、退社の予定時間を周囲と共有する「退社時間の見える化カード」を社員に配布し、職場のコミュニケーションを促進する活動を開始いたしました。

営業活動につきましては、流通向けインフラ構築や開発案件、通信向けネットワーク構築案件などに注力いたしました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、サービス、開発及び製品全てのビジネスで増加し、売上収益は271,934百万円（前年同期比8.0%増）となりました。利益につきましては、増収による売上総利益の増加などにより、営業利益は14,747百万円（同48.8%増）、税引前四半期利益は14,931百万円（同48.2%増）、四半期利益は10,092百万円（同59.9%増）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は9,950百万円（同59.0%増）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの区分方法を変更しているため、当第3四半期連結累計期間の比較・分析は変更後の区分方法に基づいております。

① 流通・エンタープライズ事業

流通向け案件などが増加し、売上収益は93,623百万円（前年同期比17.6%増）、税引前四半期利益は3,789百万円（同428.3%増）となりました。

② 情報通信事業

通信向けやインターネットサービスプロバイダ向け案件などが増加し、売上収益は90,916百万円（同8.7%増）となりました。増収に加え売上総利益率の改善により、税引前四半期利益は5,787百万円（同70.7%増）となりました。

③ 公共・広域事業

売上収益は前年同期比横ばいの25,547百万円（同0.8%減）となりましたが、売上総利益率の低下により、税引前四半期損失は529百万円（前年同期は382百万円の税引前四半期損失）となりました。

④ 金融・社会インフラ事業

売上収益は前年同期比横ばいの36,079百万円（同0.2%増）となりましたが、その他の費用の増加により、税引前四半期利益は1,484百万円（同7.6%減）となりました。

⑤ ITサービス事業

当セグメントは、クラウド関連ビジネス及び保守・運用を中心としたサービスビジネスを全社横断的に提供しており、売上収益は79,663百万円（同3.9%増）、税引前四半期利益は5,536百万円（同1.6%増）となりました。

⑥ その他

当セグメントには海外子会社及び科学事業などが含まれており、売上収益は23,479百万円（同1.2%増）となりました。海外子会社の採算性改善などにより、税引前四半期利益は439百万円（前年同期は6百万円の税引前四半期利益）となりました。

(注) 上記セグメントの売上収益及び税引前四半期利益は、セグメント間の内部売上収益等を含めて表示しておりません。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べて8,066百万円減少し、299,865百万円となりました。これは、主に棚卸資産が13,801百万円、その他の金融資産（流動資産）が5,146百万円、その他の流動資産が4,049百万円増加したものの、現金及び現金同等物が8,216百万円、営業債権及びその他の債権が23,021百万円減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて8,057百万円減少し、116,830百万円となりました。これは、主にその他の流動負債が7,700百万円増加したものの、営業債務及びその他の債務が7,713百万円、未払法人所得税が4,457百万円、従業員給付（流動負債）が2,701百万円減少したことによるものであります。

資本は、前連結会計年度末に比べて8百万円減少し、183,035百万円となりました。これは、主に四半期利益による増加が10,092百万円あったものの、その他の包括利益による減少が1,339百万円、剰余金の配当による減少が8,761百万円あったことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」）は、前連結会計年度末に比べて8,216百万円減少し、36,663百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と主な内容は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、得られた資金は12,562百万円となりました。これは、税引前四半期利益が14,931百万円となったことに加え、減価償却費及び償却費で6,167百万円、営業債権及びその他の債権の増減額で20,901百万円の収入、棚卸資産の増減額で13,823百万円、営業債務及びその他の債務の増減額で8,270百万円、法人所得税の支払額で9,136百万円の支出となったことによるものであります。

前第3四半期連結累計期間との比較では、営業債権及びその他の債権の増減額が10,666百万円減少したものの、税引前四半期利益が4,855百万円、営業債務及びその他の債務の増減額が6,436百万円増加したことに加え、法人所得税の支払額が1,956百万円減少したことにより、獲得した資金は2,718百万円増加しております。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は12,328百万円となりました。これは、有形固定資産の取得による支出で3,234百万円、無形資産の取得による支出で4,080百万円、預け金の純増減額で5,000百万円の支出となったことによるものであります。

前第3四半期連結累計期間との比較では、投資有価証券の取得による支出が3,401百万円減少したものの、無形資産の取得による支出が1,264百万円増加したことに加え、預け金の純増減額が740百万円の減少から5,000百万円の増加となったことにより、使用した資金は2,937百万円増加しております。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は8,665百万円となりました。これは、セール・アンド・リースバックによる収入が2,128百万円となったものの、配当金の支払額が8,676百万円、ファイナンス・リース債務の返済による支出が1,918百万円となったことによるものであります。

前第3四半期連結累計期間との比較では、セール・アンド・リースバックによる収入が1,109百万円増加したものの、配当金の支払額が1,300百万円増加したことにより、使用した資金は158百万円増加しております。

(4) 研究開発活動

当社グループの当第3四半期連結累計期間における研究開発費は、909百万円（情報通信事業 353百万円、ITサービス事業 150百万円、その他 404百万円）であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数 (株)
普通株式	246,000,000
計	246,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数 (株) (2016年12月31日)	提出日現在 発行数 (株) (2017年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	120,000,000	120,000,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	120,000,000	120,000,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2016年10月1日～ 2016年12月31日	—	120,000	—	21,763	—	33,076

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日（2016年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

2016年12月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 4,385,700	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 115,559,200	1,155,592	—
単元未満株式	普通株式 55,100	—	1単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	120,000,000	—	—
総株主の議決権	—	1,155,592	—

- (注) 1. 「完全議決権株式（その他）」欄には、(株)証券保管振替機構名義の株式が2,400株含まれております。
また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数24個が含まれております。
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式74株が含まれております。

② 【自己株式等】

2016年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合 (%)
伊藤忠テクノソリューションズ(株)	東京都千代田区霞が関 3-2-5	4,385,700	—	4,385,700	3.65
計	—	4,385,700	—	4,385,700	3.65

2 【役員状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の変動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 要約四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の要約四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」）第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件をすべて満たすことから、同第93条の規定により、国際会計基準第34号「期中財務報告」（以下「IAS第34号」）に準拠して作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2016年10月1日から2016年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2016年4月1日から2016年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【要約四半期連結財務諸表】

(1) 【要約四半期連結財政状態計算書】

		前連結会計年度末 (2016年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (2016年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
(資産の部)			
流動資産			
現金及び現金同等物		44,880	36,663
営業債権及びその他の債権	9	111,118	88,096
棚卸資産		18,488	32,289
当期税金資産		8	40
その他の金融資産	9	20,025	25,171
その他の流動資産		34,492	38,542
流動資産合計		229,013	220,804
非流動資産			
有形固定資産		35,514	35,908
のれん		4,245	3,960
無形資産		11,548	13,092
持分法で会計処理されている投資		635	626
その他の金融資産	9	14,490	13,630
繰延税金資産		10,286	9,955
その他の非流動資産		2,198	1,887
非流動資産合計		78,918	79,060
資産合計		307,932	299,865

		前連結会計年度末 (2016年3月31日)	当第3四半期連結会計期間末 (2016年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
(負債及び資本の部)			
流動負債			
営業債務及びその他の債務		47,202	39,488
その他の金融負債	9	6,179	5,938
未払法人所得税		6,312	1,855
従業員給付		14,061	11,360
引当金	6	660	1,431
その他の流動負債		34,140	41,841
流動負債合計		108,558	101,916
非流動負債			
長期金融負債	9	10,207	9,109
従業員給付		3,973	3,732
引当金	6	1,671	1,686
繰延税金負債		474	386
その他の非流動負債		3	0
非流動負債合計		16,329	14,914
負債合計		124,888	116,830
資本			
資本金		21,763	21,763
資本剰余金		33,076	33,076
自己株式		△9,231	△9,231
利益剰余金		132,677	133,954
その他の資本の構成要素		999	△110
親会社の所有者に帰属する持分合計		179,285	179,452
非支配持分		3,758	3,583
資本合計		183,043	183,035
負債及び資本合計		307,932	299,865

(2) 【要約四半期連結損益計算書及び要約四半期連結包括利益計算書】

【要約四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

		前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
売上収益	5	251,751	271,934
売上原価		△194,207	△210,169
売上総利益		57,544	61,765
その他の収益及び費用			
販売費及び一般管理費		△47,887	△46,951
その他の収益		394	252
その他の費用		△140	△318
その他の収益及び費用合計		△47,632	△47,017
営業利益		9,911	14,747
金融収益		218	267
金融費用		△116	△130
持分法による投資利益	62	46	
税引前四半期利益	5	10,075	14,931
法人所得税		△3,763	△4,838
四半期利益		6,312	10,092
四半期利益の帰属：			
親会社の所有者	6,257	9,950	
非支配持分	55	142	

1株当たり四半期利益 (親会社の所有者に帰属)：	8	(円)	(円)
基本的1株当たり四半期利益		54.12	86.07
希薄化後1株当たり四半期利益		—	—

【第3四半期連結会計期間】

		前第3四半期連結会計期間 (自 2015年10月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2016年10月1日 至 2016年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
売上収益		86,521	96,116
売上原価		△66,342	△74,529
売上総利益		20,179	21,587
その他の収益及び費用			
販売費及び一般管理費		△16,238	△15,886
その他の収益		216	166
その他の費用		△97	△9
その他の収益及び費用合計		△16,120	△15,729
営業利益		4,058	5,857
金融収益		92	174
金融費用		△57	△30
持分法による投資利益		26	16
税引前四半期利益		4,120	6,018
法人所得税		△1,550	△1,912
四半期利益		2,570	4,106
四半期利益の帰属：			
親会社の所有者		2,468	4,037
非支配持分		101	69

1株当たり四半期利益 (親会社の所有者に帰属)：	8	(円)	(円)
基本的1株当たり四半期利益		21.35	34.92
希薄化後1株当たり四半期利益		—	—

【要約四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

区分	注記 番号	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
		金額 (百万円)	金額 (百万円)
四半期利益		6,312	10,092
その他の包括利益 (税効果控除後)			
純損益に振り替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて測定する金融資産の 公正価値の純変動		250	△648
持分法適用会社に対する持分相当額		△0	△0
純損益に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		△1,090	△718
キャッシュ・フロー・ヘッジ		△42	51
持分法適用会社に対する持分相当額		△21	△23
その他の包括利益 (税効果控除後) 合計		△903	△1,339
四半期包括利益		5,409	8,753
四半期包括利益の帰属:			
親会社の所有者		5,681	8,838
非支配持分		△272	△84

【第3四半期連結会計期間】

		前第3四半期連結会計期間 (自 2015年10月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 2016年10月1日 至 2016年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
四半期利益		2,570	4,106
その他の包括利益 (税効果控除後)			
純損益に振り替えられることのない項目			
その他の包括利益を通じて測定する金融資産の 公正価値の純変動		226	△38
持分法適用会社に対する持分相当額		△0	0
純損益に振り替えられる可能性のある項目			
在外営業活動体の換算差額		313	848
キャッシュ・フロー・ヘッジ		△20	47
持分法適用会社に対する持分相当額		△20	6
その他の包括利益 (税効果控除後) 合計		498	863
四半期包括利益		3,068	4,970
四半期包括利益の帰属：			
親会社の所有者		2,873	4,685
非支配持分		194	285

(3) 【要約四半期連結持分変動計算書】

前第3四半期連結累計期間(自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)

(単位：百万円)

区分	注記 番号	親会社の所有者に帰属する持分						
		資本金	資本 剰余金	自己株式	利益 剰余金	その他の資本の構成要素		
						在外営業 活動体の 換算差額	その他の包 括利益を通 じて測定す る金融資産 の公正価値 の純変動	キャッシ ュ・フロ ー・ヘッジ
2015年4月1日		21,763	33,076	△9,225	121,530	907	812	13
四半期利益		—	—	—	6,257	—	—	—
その他の包括利益		—	—	—	—	△783	250	△42
四半期包括利益		—	—	—	6,257	△783	250	△42
剰余金の配当	7	—	—	—	△7,370	—	—	—
自己株式の取得		—	—	△5	—	—	—	—
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替		—	—	—	△24	—	24	—
所有者との取引額等合計		—	—	△5	△7,394	—	24	—
2015年12月31日		21,763	33,076	△9,231	120,392	123	1,086	△28

区分	注記 番号	親会社の所有者 に帰属する持分	非支配持分	資本合計
		親会社の所有者に 帰属する持分合計		
2015年4月1日		168,876	4,030	172,907
四半期利益		6,257	55	6,312
その他の包括利益		△575	△327	△903
四半期包括利益		5,681	△272	5,409
剰余金の配当	7	△7,370	△64	△7,435
自己株式の取得		△5	—	△5
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替		—	—	—
所有者との取引額等合計		△7,376	△64	△7,441
2015年12月31日		167,182	3,692	170,875

当第3四半期連結累計期間(自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)

(単位：百万円)

区分	注記 番号	親会社の所有者に帰属する持分						
		資本金	資本 剰余金	自己株式	利益 剰余金	その他の資本の構成要素		
						在外営業 活動体の 換算差額	その他の包 括利益を通 じて測定す る金融資産 の公正価値 の純変動	キャッシ ュ・フロ ー・ヘッジ
2016年4月1日		21,763	33,076	△9,231	132,677	64	950	△16
四半期利益		—	—	—	9,950	—	—	—
その他の包括利益		—	—	—	—	△515	△648	51
四半期包括利益		—	—	—	9,950	△515	△648	51
剰余金の配当	7	—	—	—	△8,671	—	—	—
自己株式の取得		—	—	△0	—	—	—	—
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替		—	—	—	△2	—	2	—
所有者との取引額等合計		—	—	△0	△8,673	—	2	—
2016年12月31日		21,763	33,076	△9,231	133,954	△450	304	35

区分	注記 番号	親会社の所有者 に帰属する持分	非支配持分	資本合計
		親会社の所有者に 帰属する持分合計		
2016年4月1日		179,285	3,758	183,043
四半期利益		9,950	142	10,092
その他の包括利益		△1,112	△227	△1,339
四半期包括利益		8,838	△84	8,753
剰余金の配当	7	△8,671	△90	△8,761
自己株式の取得		△0	—	△0
その他の資本の構成要素から 利益剰余金への振替		—	—	—
所有者との取引額等合計		△8,671	△90	△8,761
2016年12月31日		179,452	3,583	183,035

(4) 【要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

		前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税引前四半期利益		10,075	14,931
営業活動によるキャッシュ・フローに 調整するための修正			
減価償却費及び償却費		6,392	6,167
減損損失		46	67
受取利息及び受取配当金		△149	△189
支払利息		103	83
持分法による投資損益 (△は益)		△62	△46
営業債権及びその他の債権の増減額 (△は増加)		31,568	20,901
棚卸資産の増減額 (△は増加)		△11,755	△13,823
営業債務及びその他の債務の増減額 (△は減少)		△14,706	△8,270
その他		△639	1,726
小計		20,870	21,548
利息及び配当金の受取額		139	212
利息の支払額		△72	△62
法人所得税の支払額		△11,093	△9,136
営業活動によるキャッシュ・フロー		9,843	12,562
投資活動によるキャッシュ・フロー			
有形固定資産の取得による支出		△3,868	△3,234
有形固定資産の除却による支出		△159	△1
有形固定資産の売却による収入		139	18
無形資産の取得による支出		△2,815	△4,080
投資有価証券の取得による支出		△3,602	△200
投資有価証券の売却による収入		—	0
投資事業組合からの分配による収入		171	164
預け金の純増減額 (△は増加)		740	△5,000
その他		2	6
投資活動によるキャッシュ・フロー		△9,391	△12,328

		前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)
財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の返済による支出		—	△108
自己株式の取得による支出		△5	△0
セール・アンド・リースバックによる収入		1,019	2,128
ファイナンス・リース債務の返済による支出		△2,080	△1,918
配当金の支払額		△7,375	△8,676
非支配持分株主への配当金の支払額		△64	△90
財務活動によるキャッシュ・フロー		△8,507	△8,665
為替相場の変動による現金及び現金同等物への影響額		△204	214
現金及び現金同等物の増減額		△8,259	△8,216
現金及び現金同等物の期首残高		50,146	44,880
現金及び現金同等物の四半期末残高		41,886	36,663

【要約四半期連結財務諸表注記】

1. 報告企業

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（以下「当社」）は、日本に所在する株式会社であります。当社の登記されている本社及び主要な事業所の住所は、ホームページ（<http://www.ctc-g.co.jp/>）で開示しております。当社の当第3四半期の要約四半期連結財務諸表は2016年12月31日を期末日とし、当社及び子会社（以下「当社グループ」）より構成されております。また、当社の親会社は伊藤忠商事株式会社であります。

当社グループは、コンピュータ・ネットワークシステムの販売・保守、ソフトウェア受託開発、データセンターサービス、サポートなどの事業を展開しております。

2. 要約四半期連結財務諸表作成の基礎

(1) 要約四半期連結財務諸表がIFRSに準拠している旨の記載

当社の要約四半期連結財務諸表は、四半期連結財務諸表規則第1条の2に掲げる「指定国際会計基準特定会社」の要件をすべて満たすことから、同第93条の規定により、IAS第34号に準拠して作成しております。従って、年次連結財務諸表で要求されているすべての情報が含まれていないため、前連結会計年度の連結財務諸表と併せて利用されるべきものであります。

当社の要約四半期連結財務諸表は、当社グループにおいて、それぞれ所在国の会計基準に基づき作成した財務諸表に、IFRSに準拠するべく一定の修正を加えた財務諸表を基礎として作成しております。

本要約四半期連結財務諸表は、2017年2月10日開催の取締役会により承認されております。

(2) 表示通貨

当社の要約四半期連結財務諸表は、当社の機能通貨である日本円で表示しております。

また、当社の要約四半期連結財務諸表において、百万円未満の端数は切り捨てて表示しております。

3. 重要な会計方針

要約四半期連結財務諸表において適用する重要な会計方針は、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

4. 重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断

要約四半期連結財務諸表の作成において、経営者は、会計方針の適用並びに資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす判断、見積り及び仮定の設定を行っております。ただし、実績がこれらの見積りとは異なる場合があります。見積り及びその基礎となる仮定は継続して見直されます。会計上の見積りの見直しの影響は、見積りが見直された会計期間及び影響を受ける将来の会計期間において認識されます。

要約四半期連結財務諸表における重要な会計上の見積り及び見積りを伴う判断は、前連結会計年度に係る連結財務諸表と同様であります。

5. セグメント情報

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、組織別に構成されており、「流通・エンタープライズ事業」、「情報通信事業」、「公共・広域事業」、「金融・社会インフラ事業」及び「ITサービス事業」の5つを報告セグメントとしております。

「流通・エンタープライズ事業」、「情報通信事業」、「公共・広域事業」及び「金融・社会インフラ事業」は、顧客ニーズに応じ最適な対応を可能とする組織として区分されており、いずれの報告セグメントもコンサルティングからシステム設計・構築、保守、運用サービスまでの総合的な提案・販売活動を展開しております。

「ITサービス事業」は、ITインフラアウトソーシング、保守・運用を中心としたサービスビジネスにおいて、前述の4つの報告セグメントとの共同提案や調達の役割を担っております。

なお、2016年4月1日付の組織変更に伴い、第1四半期連結会計期間より、従来「エンタープライズ事業」及び「流通事業」としていた2セグメントを統合し、「流通・エンタープライズ事業」に変更するとともに、新たに「公共・広域事業」を新設し、「流通・エンタープライズ事業」及び「金融・社会インフラ事業」の一部を移管し、中央省庁や首都圏エリア、北日本地域、中部地域及び西日本地域における自治体、文教及び企業向けビジネスを展開しております。

これに伴い、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

以下に報告されているセグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務諸表が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

(2) 報告セグメントの収益及び損益

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、当社グループの会計方針と同一であります。なお、各セグメント間の内部取引は市場実勢価格に基づいております。

当社グループの報告セグメント情報は次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間（自2015年4月1日至2015年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	要約四半 期連結財 務諸表計 上額
	流通・ エンター プライズ 事業	情報 通信 事業	公共・ 広域 事業	金融・ 社会イ ンフラ 事業	ITサ ービス 事業	計				
売上収益										
外部顧客からの 売上収益	77,300	82,722	25,394	35,495	8,264	229,176	22,575	251,751	—	251,751
セグメント間の売上 収益又は振替高	2,329	903	351	523	68,390	72,498	621	73,120	△73,120	—
計	79,630	83,625	25,745	36,018	76,654	301,675	23,197	324,872	△73,120	251,751
税引前四半期利益 (セグメント利益又 は損失(△))	717	3,390	△382	1,606	5,451	10,782	6	10,789	△713	10,075

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外子会社及び科学事業等が含まれております。

2. 税引前四半期利益（セグメント利益又は損失(△)）の調整額△713百万円には、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用及び全社で負担している投資等△617百万円が含まれております。

当第3四半期連結累計期間（自2016年4月1日至2016年12月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント						その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	要約四半 期連結財 務諸表計 上額
	流通・ エンター プライズ 事業	情報 通信 事業	公共・ 広域 事業	金融・ 社会イ ンフラ 事業	ITサ ービス 事業	計				
売上収益										
外部顧客からの 売上収益	90,517	89,342	25,048	35,593	8,408	248,911	23,023	271,934	—	271,934
セグメント間の売上 収益又は振替高	3,105	1,573	498	486	71,254	76,919	456	77,375	△77,375	—
計	93,623	90,916	25,547	36,079	79,663	325,830	23,479	349,310	△77,375	271,934
税引前四半期利益 (セグメント利益又 は損失(△))	3,789	5,787	△529	1,484	5,536	16,068	439	16,507	△1,576	14,931

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、海外子会社及び科学事業等が含まれております。

2. 税引前四半期利益（セグメント利益又は損失(△)）の調整額△1,576百万円には、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用及び全社で負担している投資等△1,171百万円が含まれております。

6. 引当金

引当金の内訳及び増減は次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間（自 2015年4月1日 至 2015年12月31日）

（単位：百万円）

	資産除去債務 引当金	受注損失 引当金	アフターコスト 引当金	合計
2015年4月1日	1,742	458	546	2,746
期中増加額	42	1,126	48	1,217
割引計算の期間利息費用	30	—	—	30
期中減少額（目的使用）	△149	△1,526	△46	△1,723
期中減少額（戻入）	△7	△325	△13	△346
仕掛品相殺の増減額	—	418	—	418
その他	5	—	—	5
2015年12月31日	1,662	151	534	2,348
流動負債	—	151	534	686
非流動負債	1,662	—	—	1,662
合計	1,662	151	534	2,348

（注）前第3四半期連結累計期間の受注損失引当金の期中増加額及び期中減少額については、これに対応する仕掛品との相殺後の金額で表示しておりましたが、第1四半期連結会計期間より仕掛品との相殺前の金額で表示することへ変更しております。これに伴い、前第3四半期連結累計期間の受注損失引当金の期中増加額及び期中減少額を修正再表示しております。

なお、この表示方法へ変更前の前第3四半期連結累計期間における対応する仕掛品との相殺後の期中増加額は237百万円、期中減少額（目的使用）は△429百万円、期中減少額（戻入）は△114百万円であります。

当第3四半期連結累計期間（自 2016年4月1日 至 2016年12月31日）

（単位：百万円）

	資産除去債務 引当金	受注損失 引当金	アフターコスト 引当金	合計
2016年4月1日	1,671	178	481	2,331
期中増加額	—	1,607	226	1,834
割引計算の期間利息費用	23	—	—	23
期中減少額（目的使用）	△1	△347	△62	△411
期中減少額（戻入）	△4	△43	△15	△62
仕掛品相殺の増減額	—	△594	—	△594
その他	△3	—	—	△3
2016年12月31日	1,686	800	630	3,117
流動負債	—	800	630	1,431
非流動負債	1,686	—	—	1,686
合計	1,686	800	630	3,117

7. 配当金に関する事項

当社は、中間配当及び期末配当の年2回の剰余金の配当を行っており、これらの剰余金の配当の決定機関は期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間における配当金支払額は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間（自2015年4月1日至2015年12月31日）

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
2015年6月23日 定時株主総会	普通株式	3,613	62.50	2015年3月31日	2015年6月24日
2015年10月29日 取締役会	普通株式	3,757	32.50	2015年9月30日	2015年12月4日

（注）1株当たり配当額については、2015年3月31日を基準日、2015年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合をもって行った株式分割の影響を反映しておりません。

当第3四半期連結累計期間（自2016年4月1日至2016年12月31日）

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （百万円）	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
2016年6月22日 定時株主総会	普通株式	4,335	37.50	2016年3月31日	2016年6月23日
2016年11月1日 取締役会	普通株式	4,335	37.50	2016年9月30日	2016年12月2日

8. 1株当たり利益

前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間並びに前第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結会計期間における、基本的1株当たり四半期利益の計算は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 （自2015年4月1日 至2015年12月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自2016年4月1日 至2016年12月31日）
親会社の所有者に帰属する四半期利益（百万円）	6,257	9,950
発行済普通株式の加重平均株式数（千株）	115,614	115,614
基本的1株当たり四半期利益金額（円）	54.12	86.07

	前第3四半期連結会計期間 （自2015年10月1日 至2015年12月31日）	当第3四半期連結会計期間 （自2016年10月1日 至2016年12月31日）
親会社の所有者に帰属する四半期利益（百万円）	2,468	4,037
発行済普通株式の加重平均株式数（千株）	115,614	115,614
基本的1株当たり四半期利益金額（円）	21.35	34.92

（注）希薄化後1株当たり四半期利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

9. 金融商品の公正価値

(1) 公正価値の測定方法

営業債権及びその他の債権

リース債権の公正価値については、未経過リース料の合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2に分類しております。また、リース債権を除く営業債権及びその他の債権の公正価値については、満期までの期間が短期であるため帳簿価額とほぼ同額であり、公正価値の測定及び開示ではレベル2に分類しております。

その他の金融資産、その他の金融負債、長期金融負債

公正価値で測定されるその他の金融資産のうち、市場性のある有価証券の公正価値は市場価格を用いて見積っており、レベル1に分類しております。市場価格が存在しない場合は、割引将来キャッシュ・フロー、収益、利益性及び純資産に基づく評価モデル及びその他の評価方法により、公正価値を算定しており、評価の内容に応じてレベル2又はレベル3に分類しております。

デリバティブの公正価値については、取引先金融機関等から提示された価格等に基づき算定しており、レベル2に分類しております。

償却原価で測定されるその他の金融資産の公正価値については、帳簿価額とほぼ同額であり、観察可能な市場データを利用して公正価値を算定しているため、公正価値の測定及び開示ではレベル2に分類しております。

償却原価で測定されるその他の金融負債及び長期金融負債のうち、リース債務の公正価値は、未経過リース料の合計額を、新規に同様のリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2に分類しております。また、リース債務を除くその他の金融負債及び長期金融負債の公正価値については、帳簿価額とほぼ同額であり、観察可能な市場データを利用して公正価値を算定しているため、公正価値の測定及び開示ではレベル2に分類しております。

(2) 金融商品の種類別の公正価値

主な金融商品の種類別の帳簿価額及び公正価値は次のとおりです。

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2016年3月31日)		当第3四半期連結会計期間末 (2016年12月31日)	
	帳簿価額	公正価値	帳簿価額	公正価値
償却原価で測定される金融資産				
営業債権及びその他の債権	111,118	111,268	88,096	88,207
その他の金融資産	27,910	27,910	32,919	32,919
公正価値で測定される金融資産				
その他の金融資産				
FVTOCI金融資産	5,821	5,821	5,197	5,197
FVTPL金融資産	784	784	685	685
償却原価で測定される金融負債				
その他の金融負債	5,995	6,009	5,881	5,892
長期金融負債	10,207	10,327	9,109	9,191
公正価値で測定される金融負債				
その他の金融負債				
FVTPL金融負債	183	183	57	57

(3) 要約四半期連結財務諸表に認識された公正価値の測定

以下は、経常的に公正価値で測定している金融商品について、測定を行う際に用いたインプットの重要性を反映した公正価値ヒエラルキーのレベルごとに分析したものであります。

レベル1：活発な市場における同一資産・負債の市場価格

レベル2：直接又は間接的に観察可能な公表価格以外の価格で構成されたインプット

レベル3：観察可能な市場データに基づかないインプット

なお、公正価値ヒエラルキーのレベル間の振替は、振替を生じさせた事象又は状況の変化の日に認識しております。

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (2016年3月31日)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産：				
FVTOCI金融資産	5,663	26	130	5,821
FVTPL金融資産	—	379	404	784
資産合計	5,663	405	535	6,605
負債：				
FVTPL金融負債	—	183	—	183
負債合計	—	183	—	183

前連結会計年度において、公正価値ヒエラルキーのレベル1とレベル2の間の重要な振替はありません。

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (2016年12月31日)			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産：				
FVTOCI金融資産	5,043	26	127	5,197
FVTPL金融資産	—	168	516	685
資産合計	5,043	195	644	5,882
負債：				
FVTPL金融負債	—	57	—	57
負債合計	—	57	—	57

当第3四半期連結累計期間において、公正価値ヒエラルキーのレベル1とレベル2の間の重要な振替はありません。

(4) レベル3に分類された金融商品

レベル3に分類される金融商品については、当社で定めた評価方針及び手続に基づき、適切な評価担当者が評価の実施及び評価結果の分析を行っております。

レベル3に分類された金融商品の調整表は次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2015年4月1日 至 2015年12月31日)	
	FVTOCI金融資産	FVTPL金融資産
2015年4月1日	74	383
利得又は損失		
純損益	—	△3
その他の包括利益	0	—
購入	59	200
売却	—	—
分配	—	△171
その他	△0	△2
2015年12月31日	134	406
前第3四半期連結会計期間末に保有する金融商品に関して純損益に認識した利得又は損失(△)(純額)	—	△3

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 2016年4月1日 至 2016年12月31日)	
	FVTOCI金融資産	FVTPL金融資産
2016年4月1日	130	404
利得又は損失		
純損益	—	77
その他の包括利益	1	—
購入	—	200
売却	△0	—
分配	—	△164
その他	△5	△1
2016年12月31日	127	516
当第3四半期連結会計期間末に保有する金融商品に関して純損益に認識した利得又は損失(△)(純額)	—	77

純損益に認識した利得又は損失は、要約四半期連結損益計算書の「金融収益」又は「金融費用」に含めております。その他の包括利益に認識した利得又は損失のうち税効果考慮後の金額は、要約四半期連結包括利益計算書の「その他の包括利益を通じて測定する金融資産の公正価値の純変動」に含めております。

レベル3に分類した金融商品について、観察可能でないインプットを合理的に考え得る代替的な仮定に変更した場合に重要な公正価値の増減は見込まれておりません。

10. 関連当事者取引

当社グループは以下の関連当事者取引を行っております。

前第3四半期連結累計期間（自 2015年4月1日 至 2015年12月31日）

（単位：百万円）

種類	名称	関連当事者関係の内容	取引金額	未決済残高
親会社	伊藤忠商事㈱	資金の寄託契約 (期間設定あり)	(資金の寄託) —	14,000
			(資金の払戻) —	
		資金の寄託契約 (随時引出可能)	—	2,273
		投資有価証券の購入	3,321	—

- (注) 1. 資金の寄託の利率に関しては、市場金利を勘案し、両社協議の上で個別に決定しております。
 2. 資金の寄託契約（随時引出可能）に関しては、伊藤忠商事㈱のキャッシュマネジメントサービスの利用により資金が移動するため、取引金額は記載せずに、未決済残高のみ記載しております。
 3. 投資有価証券の購入に関しては、東京証券取引所の立会外取引ToSTNeT-1による取得であり、取引価格は取引実行日（2015年11月27日）の終値により決定しております。

当第3四半期連結累計期間（自 2016年4月1日 至 2016年12月31日）

（単位：百万円）

種類	名称	関連当事者関係の内容	取引金額	未決済残高
親会社	伊藤忠商事㈱	資金の寄託契約 (期間設定あり)	(資金の寄託) 6,000	25,000
			(資金の払戻) 1,000	
		資金の寄託契約 (随時引出可能)	—	7,040

- (注) 1. 資金の寄託の利率に関しては、市場金利を勘案し、両社協議の上で個別に決定しております。
 2. 資金の寄託契約（随時引出可能）に関しては、伊藤忠商事㈱のキャッシュマネジメントサービスの利用により資金が移動するため、取引金額は記載せずに、未決済残高のみ記載しております。

11. 後発事象

該当事項はありません。

2 【その他】

第38期（2016年4月1日～2017年3月31日）中間配当に関し、2016年11月1日開催の当社取締役会において、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- イ 配当金の総額・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4,335百万円
- ロ 1株当たりの金額・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37円50銭
- ハ 支払請求の効力発生日及び支払開始日・・・・・・・・・・ 2016年12月2日

(注) 2016年9月30日現在の株主名簿に記録された株主若しくは登録株式質権者に対し、支払いを行っております。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2017年2月13日

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石 塚 雅 博 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大久保 孝 一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている伊藤忠テクノソリューションズ株式会社の2016年4月1日から2017年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2016年10月1日から2016年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2016年4月1日から2016年12月31日まで）に係る要約四半期連結財務諸表、すなわち、要約四半期連結財政状態計算書、要約四半期連結損益計算書、要約四半期連結包括利益計算書、要約四半期連結持分変動計算書、要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び要約四半期連結財務諸表注記について四半期レビューを行った。

要約四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第93条の規定により国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない要約四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から要約四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の要約四半期連結財務諸表が、国際会計基準第34号「期中財務報告」に準拠して、伊藤忠テクノソリューションズ株式会社及び連結子会社の2016年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2017年2月13日
【会社名】	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
【英訳名】	ITOCHU Techno-Solutions Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 菊地 哲
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役兼副社長執行役員 松島 泰
【本店の所在の場所】	東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
【縦覧に供する場所】	伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 西日本支社 (大阪市北区梅田三丁目1番3号) 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 中部支社 (名古屋市中区錦一丁目5番11号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長菊地哲及び取締役兼副社長執行役員松島泰は、当社の第38期第3四半期(自2016年10月1日至2016年12月31日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

該当事項はありません。

